

新技術・情報名	イチゴ「女神」のポット育苗による早出し技術		
実施場所	三重県農業技術センター	分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

イチゴのポット育苗は標準化技術であるが、イチゴ品種「女神」を用いたポット育苗と定植時期の組み合わせにより収穫の早進化が図れる。

(1) 鉢上げ時期は、7月初旬までに行う。

(2) ポット当り施肥量は、慣行の $N=0.25g/4号ポット$ (標肥) に対し $N=0.1g$ (少肥) の基肥施用で行い、肥料は速効性の化成肥料を用いる。なお、8月10日以降は N 中断の意味がもう急速に培土内 N 成分を減少させるため、1日2回以上の灌水を行う。

(3) 定植時期は、9月5日～10日の間に行う。

(4) 収穫時期は、少肥 ($N=0.1g/4号ポット$) の方が11月中旬から10日程早まると共に早期多収も望める。また前期及び総収量は、夜冷育苗 (8月下旬入庫) の場合と同等得られる。

2) 技術・情報の適用効果

ポット育苗は夜冷育苗に比べ経費がかからず、11月収量も10a当り90kg程度 (年約1t) 得られ、5月までの総収量も5t内外であることから収益性の向上にもつながり、農家の栽培規模にかかわらず取り入れられる。

3) 適用範囲

平坦地でのハウスイチゴ栽培地帯

4) 普及・利用上の留意点

(1) ポット用土は病害虫のない土を使用し、排水性を重点にして培土作成を行う。

(2) 苗の生育を揃える為にも雨よけハウス育苗とする。

(3) 定植作業が遅れる場合には、育苗ポットへ液肥の追肥を行い根の活力を高めておく。

(園芸部 野菜研究室 庄下正昭)

2. 具体的データ (図表)

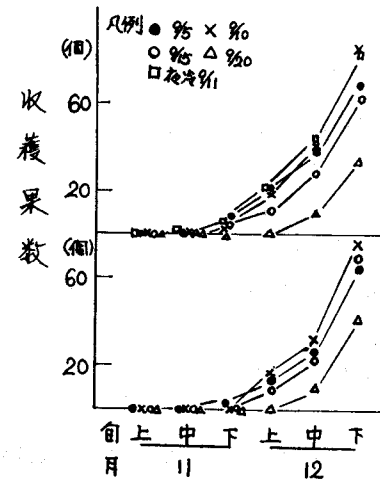


図1. 収穫果数の変動 (10株、5g以上可取果)

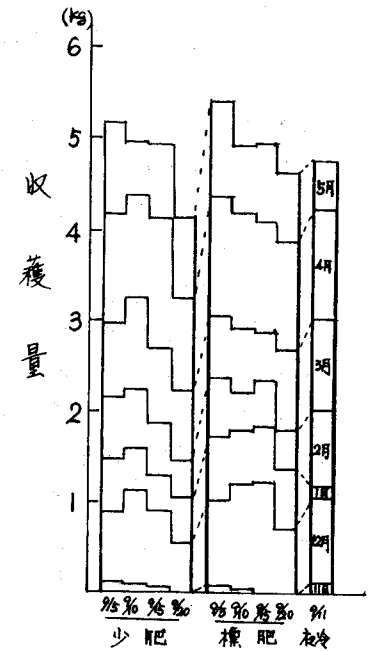


図2. 時期別収量 (10株、5g以上可取果)

表1. 定植苗の状況および第1果房収穫始

区名	外葉数	冠径	3枚葉苗重	花芽分化程度	* 収穫始	
少肥	9/5	4.6 cm	0.80 cm	8.2 g	- ~ +	11/17
	9/10	5.1	0.89	9.7	± ~ +	11/24
	9/15	4.4	0.73	11.6	+ ~ ++	11/24
	9/20	4.7	0.62	9.1	+ ~ ++	12/1
標肥	9/5	5.6	0.66	19.0	- ~ +	11/24
	9/10	5.3	0.91	22.8	± ~ +	11/27
	9/15	5.9	1.05	21.8	++	11/27
	9/20	5.2	0.84	23.4	++ ~ +++	12/1
夜冷	9/11	4.5	0.92	19.8	± ~ ++	11/20

*
 - 未分化
 ± 未分化～分化初期
 + 分化初期～分化中期
 ++ 分化後期
 +++ 花房形成期
 # かく片形成期

3. その他特記事項

研究課題名 イチゴ新品種「女神」の促成栽培適応性技術の確立
 期間 昭和60～62年 予算区分 県単